- SEA TRIAL -

## DANCING ON THE WATER

2020年1月のデュッセルドルフでデビューしたばかりの「PARKER 760 Quest(パーカー 760クエスト)」が、早くも日本上陸を果たした。 インポーターが「Sports Trawler(スポーツトローラー)」と呼ぶマルチパーパスなスタイルに、パフォーマンスボートさながらの鮮烈な走行性能。 横浜沖で試した「760 Quest」は、「PARKER」伝統のヘビーデューティモデルを思い起こさせるものだった。

text: Atsushi Nomura photo: Makoto Yamada special thanks: OKAZAKI YACHTS http://okazaki.yachts.co.jp





ポーランドが「ヨーロッパの工場」と呼ばれるようになって久しい。比較的低い労働コストのため、家電、自動車などのグローバル企業は欧州市場に向けた製造拠点を東欧ポーランドに置いてきたが、ボートを含む造船業も例外ではなかった。これまでにポーランドの数多くの造船所が、海外ボートビルダーと提携してOEM供給を行ったり、大規模マリンコングロマリットの傘下に入ったりという動きを見せてきた。その結果、かつて台湾の造船業がそうであったように、プレジャーボートやセーリングボートを委託製造する造船所は、ヨーロッパ標準、すなわち世界基準のボート製造のノウハウを身に付けていった。実際、ここ数年、日本に入ってくるヨーロッパの中小型艇の多くが、ポーランドで製造されているケースは多い。特にヨーロッパの中小型艇については、すでにポーランド無くして成り立たないレベルと言ってよ良いだろう。

こういった状況のポーランドでも、もちろん独自ブランドとして確立しているビルダーがある。「PARKER POLAND (パーカー ポーランド)」はその代表格。もともと「PARKER RIB」と呼ばれるRIBボートを製造していたが、FRP製のプレジャーボート製造も開始。RIBで培ってきたヘビーデューティな品質はヨーロッパ中で高く評価されるようになる。現在ではヨーロッパだけでなく、南北アメリカ、アフリカ、アジアなど、世界中に販売網を展開するボートビルダーに成長している。

現在のラインナップは  $21 \sim 33$  フィートレンジに 20 モデル。「PARKER 760 Quest (パーカー 760 クエスト)」は、2020 年 1 月のデュッセルドルフ (boot Düsseldorf 2020) でワールドプレミアを迎えたばかりの最新モデルで、早くも日本上陸である。なお PARKER は年間 1,000 艇あまりの建造能力があり、一部はノルウェーの「ASKELADDEN (アスケ



ラーデン)」というブランドにOEM供給されている。ノルウェー仕様の「PARKER 760 Quest」は、「ASKELADDEN P76 Weekend」の名で販売されていると言う。

「760 Quest」のパワートレインはシングルアウトボード。MERCURY Verado V8 250hpの独特のフォルムのエンジンカバーが目を惹く。船体は1フィート大きい姉妹艇「PARKER 790 Explorer」と同様、TSI (Two Step Infusion) ハルを採用。TSI ハルはいわゆる2段ステップハルで、ハルと水面との摩擦抵抗を減らす効果があり、速度と燃費に貢献する。

デッキレイアウトはセンターキャビン&セミウォークアラウンド。逆傾

斜したフロントウィンドウが北欧テイストを醸し出している。そしてやはり、右舷サイドデッキが左舷よりもわずかに広い。わずか数cmの差ではあるが、限られた全幅の中でセンターキャビンの空間を最大化するための有効策なのだろう。最近のヨーロッパの中小型艇ではほぼ定番ともなったデザイン手法である。

ブルワークトップまでの高さがあるアフトコクピットは、後部にベンチシート、右舷後部にゲートがあり、船外機脇のプラットフォームにつながる。右舷ブルワークの内側にフェンダーロッカーがあり、コンパクトに4本収納可能だ。

キャビン内は外観から想像する以上に高さがある。天井高はドライ

バー位置で195cm。上位モデルの「790 Explorer」と同レベルのサイズ だそうだ。右舷後部にシンクを備えたカウンター、その前方にヘルムス テーションとドライバーズシート。左舷側は前後対面式のダイネッティ で、前側シートの背もたれを倒せばパッセンジャーシートに、テーブルを 外してパッドを渡せばベッドにもなる。

全面ガラスのアフトドアを含め全周が大きなウィンドウに覆われ、 ハードトップに設けられたスライディングルーフもガラス仕様で、キャビン内は非常に明るい。最前部のフォアキャビンはスリーピングスペースとしても、大型ドライストレージとしても使い勝手が良さそうだ。もちろん個室ヘッドも備わる。 シートライアル当日は風がやや強く、うねりも少しあるコンディション。 2名乗船で燃料は100L、デッドスローで沖へ向かう。ゼロスタートから 一気に加速。ほぼハンプはなくスムーズにプレーニング。8割程度の出 力、4,600rpm、28ノット前後でスラロームを行う。とても素直でクイック な動き。先行する撮影艇の引き波に当てると派手にスプレーを上げるが 衝撃は少ない。斜め後ろから当てても、トルクフルに押し切り、いやな横 滑りも起こさない。

ー旦スロットルを戻し、フラットな海面を探してスピード計測する。 1,000rpmで4.0ノット、1,800rpmで6.5ノット、2,600rpmで10.0ノット、3,400rpmで17.3ノット、4,200rpmで25.0ノットに到達。4,600rpm





りも起こさない。

で28.0ノット、5,000rpmで33.0ノット、さらにスロットルレバーを押し 込むと5,400rpmまで伸び36.7ノット。ここからトリムを調整していくと、 5,500rpm、40.0ノットに到達する。 爽快に伸びるような加速感が楽しい。 アドレナリンが沸き立ち、パワーボートを走らせる楽しみをとことん感じさ せてくれる。派手なスプレーが上がるため写真で見るとタフな印象に見え るが、実は閉め切ったキャビン内は別世界。走行中もいたって穏やかだ。

今回のプロペラは3ブレード、ダイヤ14×ピッチ19で、最高回転 5,500rpm。Verado V8 250のフルスロットル RPM は 5,200 ~ 6,000rpm なのでほぼぴったりのマッチングである。さらに好みや遊び方によって ピッチを変えたり、4ブレードに変えたり、そういった改造も楽しめるだ ろう。「760 Quest」の最大搭載可能エンジンは300馬力。250馬力で40 ノットに到達するモンスターは、300馬力ではどこまで伸びるだろうか!



「PARKER 760 Quest」は、25フィートというコンパクトなサイズに表現さ れた北欧的なモダンデザインに、パフォーマンスボートさながらのハイポテ ンシャルな走行性能を秘める。大型艇をも軽く凌ぐ40ノットの走りは、周り を驚かせること間違いない。「羊の皮をかぶった狼」。使い古された表現で はあるが、まさにその言葉に相応しい、魅力あふれるモデルだ。 P.B.



## **PARKER 760 Quest**

全長 7.99 m

全幅 2.54 m

喫水 0.69 m

重量 2.07 ton

エンジン MERCURY Verado V8 250

最高出力 250 HP 最大搭載可能馬力 300 HP

問い合わせ先 オカザキヨット TEL: 西宮 0798-32-0202、横浜 045-770-0502

http://okazaki.yachts.co.jp



